

指定管理者制度導入施設の管理運営検証結果【検証シート】

		管理No.	
施設の名称	山形県源流の森	指定管理者	公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構
所在地	西置賜郡飯豊町須郷6 6 9-3	県担当課 (電話番号)	置賜総合支庁産業経済部森林整備課 (0238-35-9053)
指定期間	令和7年4月1日 ～ 令和12年3月31日		
検証期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日		

検証項目		指定管理者による自己検証		県(施設所管課)による評価・検証	
1 仕様書等に沿った管理・運營業務の履行状況					
① 管理・運營業務の履行状況	・年度協定書等に基づき、県と密に連絡を取りながら施設の適切な維持管理に努めた。 ・経年劣化が進んでいる工作物や建物については、県の指定修繕と連携しながら可能な範囲で修繕を行った。 ・インタープリターの協力のもと、常設プログラムや主催行事を実施した。しかし、猛暑・悪天候やクマ出没の影響を受け常設プログラム利用者数は前年度の70%となった。	評 価	《評価の理由》		
		B	・仕様書に基づき、概ね適正な管理運営が行われている。 ・水道水の水質異常が発生し対応に時間を要した場面があったものの、県との連絡調整を適宜行い、取りうる対応をとった。		
② 管理・運営上の課題、問題点（改善すべきこと）	・経年劣化が進んでいる工作物や建物について、修繕が遅滞しているものがある。著しい老朽箇所や損傷等が見られた際は、県へ報告し対象箇所の対応について協議を行っている。 ・クマ、イノシシ、サル等の出没が増加傾向にある。町と連携しチラシの掲示や利用者への注意喚起、エサとなる植物・藪の刈払い、クマ剥ぎ防止措置、鈴やクマスプレーの携帯等の対応を行っている。	《課題等の原因分析》 ・施設全体の老朽化に伴い修繕箇所は増え続けている。継続して予算要求しているものの緊急度の高い修繕しか認められておらず、修繕の見通しが立たない案件が増加している。 ・施設の老朽化が進んでおり、突発的に施設の故障や不具合が発生し、対応に時間がかかる場合がある。 ・クマの目撃情報等は全国的に増加傾向だが、当施設でも増加傾向である。また、施設の特性上山林も管理対象としているため、野生動物の出没は避けられないものとする。			
課題、問題点への今後の対応	・施設整備の目的や来場者への十分なサービス提供に影響が出ないように、必要な施設修繕費を厳選し、メリハリのある予算要求を行うと共に、修繕が必要なものは引き続き予算要求を続けていく。 ・突発的な施設の故障や不具合については、対応期限等を明確にして対処する。 ・クマ、イノシシ、サル等野生鳥獣に関しては、施設利用に影響が出ない範囲での誘引物の除去、藪化した場所の刈払いを今まで以上に進めるとともに、緊急時の連絡体制の確認や、町や指定管理者と連携して必要な対策を行っていく。				
2 利用者からの要望等への対応					
① 意見・要望等及びその対応状況	・水没林観光期の渋滞対策には、飯豊町や町観光協会等と連携して大型バスを中心とした車両受け入れや町のシャトルバス運営に協力した。また、水没林観光者のニーズを受け独自の案内事業を実施した。	評 価	《評価の理由》		
		B	・関係機関と連携して柔軟に対応している。 ・昨年に引き続き「水没林秘密の裏道ツアー」を実施し、水没林観光客の利用者を源流の森の利用者増に繋げている。		
意見・要望等への今後の対応	・水没林観光者の増加により当施設の利用増にも繋がったことから、引き続き関係機関との連携を密にし、当施設として協力可能な事案については柔軟な対応を行っていく。				
3 指定管理者制度活用の効果					
① サービスの向上	・交通手段の確保が困難な学童保育等に対する「出前教室」を継続して実施した。 ・ホームページの他、Facebook、子育て情報サイト、X（旧Twitter）を活用した情報発信を行い、県民にわかりやすく情報提供することに努めた。 ・「森のたより」を作成し、置賜管内と周辺の小学校や幼稚園・保育園、公共施設等を中心に配布した。特に学校や学童保育等の団体利用拡大に成果が感じられた。	評 価	《評価の理由》		
		B	・猛暑やクマ出没の影響により全体の利用人数は昨年度より落ち込んでいるもの、出前講座においては新規団体のみならずリピーターもあり、利用者増に効果があるとする。		
② 経費の節減	・「やまがたECOマネジメントシステム」の取組みにおいて、消灯やカラーコピーの節減等に努めた。 ・修繕や施設の維持管理に関して、可能なものは職員自ら、またはインタープリターの協力を得るなど経費削減に努めた。	評 価	《評価の理由》		
		A	・修繕に関してはインタープリターの協力も仰ぎながら、職員自らで対応できるものは直接修繕するなど、工夫しながら実施している。 ・消費エネルギーは熱量ベースで昨年の約94%と、前年に引き続き減少傾向であり省エネへの取組み成果が表れている。		
③ その他(地域の活性化、雇用の確保等)	・近隣の温泉施設白川荘と連携した「遊・湯パック」を継続して実施した。 ・主催行事の材料として地元産品を積極的に採り入れた。 ・主催行事において、置賜地域の観光施設や大学、漁協、昆虫館、県の研究機関、雪室管理組合と連携した取組みを実施し、関係者の取組み等を県民に紹介した。 ・鶴岡市立加茂水族館との連携協定により、源流の森オープンイベントでのクラゲ展示・海ごみワークショップ、加茂水族館でのクラフト・陶芸の出前講座を実施し、森と海のつながりの啓発、両施設の利用拡大を図った。	評 価	《評価の理由》		
		A	・昨年に引き続き、加茂水族館との連携に取り組み、飯豊町と鶴岡市の活性化へ寄与している。 ・令和7年度は町内の雪室管理組合と連携して新規イベントを立ち上げた。地域施設や地域の各機関との連携を拡大しており、地域の活性化に寄与している。		
総合的な評価	・仕様書に基づく施設の管理運営を行うとともに、サービス向上に向けた自主的な取組みを行っている。 ・雪室管理組合との連携など、地域資源を活かした独創的な取組みにより地域の活性化に貢献している。 ・限られた予算の中、関係者と連携して施設の維持修繕や経費削減に取り組んでいる。 ・クマ出没に対する様々な取り組みの実施に敬意を表するとともに、多くの源流の森利用者に、安全に森林の魅力を知ってもらえる取り組みを推進して頂くことを期待します。				

- 【評価指標】
- A：仕様書等に定める水準を上回っている等、優れた対応がなされている。
 - B：概ね適正に実施されている。
 - C：部分的に改善等を要するところがあるが、既に対応済み又は対応見込みである。
 - D：仕様書等に定める水準に達しておらず、大いに改善を行う必要がある。
- 注）検証項目については、施設特性等に応じて適宜追加することができるものであること。